

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

加古川市長

市町村名 (市町村コード)	加古川市 (28210)	
地域名 (地域内農業集落名)	志方町永室地区 (永室)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年10月20日 (第2回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

【現状】

志方西営農組合や大規模個人農家が地域農業の担い手として、永室地区の農地の28%を管理している。
その他、キャベツ、いちご、いちじく等を栽培する農家が担い手となっている。

【課題】

兼業農家が多く、高齢化が進み後継者不足が問題となる中、担い手が利用する農地以外の農地をどのように管理していくかが課題となっている。また、特に志方西営農組合の高齢化が深刻となっており、遊休農地の更なる増加が懸念されることから、営農組合の後継者及び新規就農者を確保・育成することが喫緊の課題である。

【主要作物】

担い手: 水稻、キャベツ、いちご、いちじく等

個人農家: 水稻

(2) 地域における農業の将来の在り方

担い手となる営農組合や認定農業者等の農地利用について現状維持に努める。
農地管理が容易な水稻の生産を続ける他、キャベツ、いちご、いちじくの生産を継続する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	31.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	31.2 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	— ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地の間にある農地は畑作を行う区域、保全・管理を行う区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
地域の農地利用はできる限り集積・集約化する。 農地については、引き続き担い手や集落営農組織が適切に維持していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構を活用して農地の集積・集約を図り維持、保全に努める。
(3)基盤整備事業への取組方針
農地の基盤整備済み(昭和56年度に実施)。すでに基盤整備を実施しているが、農作業の効率化を図るため、畦畔撤去などの基盤整備の可能性を検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
営農組合の後継者を確保するとともに、新規就農を希望する者がいれば、地域で耕作する農業者に支障がない範囲で、農地等の紹介を行うことで就農までの支援を行う。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
近隣地区で農業支援サービス事業等を実施している事業者はいないが、地域の農地を担う営農組合の高齢化が課題となっているため、依頼可能な支援サービス事業者が出てきた場合、活用を検討する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他
【選択した上記の取組方針】 ・鳥獣被害防止対策として侵入防護柵を設置。				